編集後記

ここに立教大学大学院文学研究科比較文明学専攻紀要『境界を越えて――比較文明学の現在』第14号をお届けする．

ご覧いただければわかるように，今回掲載されたのは論文1本，研究ノート1本，書評1本である．当初投稿された論文は3本だったが，査読の末残ったのは1本のみという結果になった．査読は，執筆者にとって，論文を公的な場に発表する際のハードルではあるが，独りよがりな論旨展開や議論の甘さを指摘してもらう重要な機会でもある．このチャンスを利用してやろうというほどの気構えをもって，さらに活発な投稿を期待している．この他，昨年度の最優秀修士論文執筆者には力のこもった論文要旨を寄稿していただいた．研究交流会記録には，10月に開催された交流会での活発な議論が再現されている．今年度をもって定年退職を迎える彦坂尚嘉特任教授には特別寄稿をご執筆いただいた．あわせてお読みいただきたい．

今回の紀要における最大の変更は，紀要全篇にわたり執筆方法を統一した点にある．昨年度の紀要編集委員長，千石英世先生が打ち出した編集作業の規範化にむけた方針転換にともない，従来は各号ごとに緩やかに統一されていた執筆方法が，今号より，日本社会学会編集委員会が発行する『社会学評論スタイルガイド 第2版』に沿うよう統一された．これにともない，本号からは執筆要項が大幅に見直されることとなった．執筆にあたっての決まり事や作法，注意すべき点については，これまでより詳細な解説が巻末の執筆要項につまびらかにされている．投稿を希望する方はそちらを参考にしていただきたい．

今回の『スタイルガイド』方式への転換は，紀要全体の形式に統一性をもたらし，論文投稿者に学術論文執筆に際しての具体的な参照項を明示することになった点で重要な成果をもたらした．ただその一方で，方針転換の初年度ということもあり，編集現場で複数の混乱が生じたことは否めない．新たな方針の浸透にしたがって，今後こうした混乱は減じていくことと思われる．今年度にかぎっていえば，編集担当として実質的な作業を中心となって進めてくださった今井祥子氏に多大なご苦労をかけてしまった．また編集委員のみなさん，なかでも小平健太氏には全面的にご協力いただいた．記して深謝したい．

2014年2月

林　みどり